

令和5年度 独立行政法人日本スポーツ振興センター新博物館展示・運営に関する有識者懇談会
(第2回) 議事要旨

1. 日時 令和5年12月12日(火) 13:00~15:00

2. 場所 独立行政法人日本スポーツ振興センター 外苑事務所

3. 出席者

・委員

荒木絵里香委員、池口徳也委員、大林太朗委員、沓沢博行委員、栗原祐司委員、
黒川仁美委員、田良島哲委員、萩原恒昭委員、町田樹委員
(オンライン) 池田めぐみ委員、建石徹委員 (計11名)

・事務局

JSC 大西(啓) 理事、須藤館長、新名学芸員、木村学芸員、寅ヶ口施設部企画調整役

4. 議事内容

議題(1) 展示対象エリアの運営方針

事務局より資料1(懇談会後回収)、資料2について説明があった。委員からの主な意見は以下のとおり。

- オープンギャラリーと展示室の間に仕切を設けるか否かで展示できるものが、かなり変わる。
- 収蔵庫にスポーツ博物館が保管する全ての資料が入りきらないのではないか。
- 受付を通過する前にロッカーとトイレを配置した場合、ミュージアム利用者以外の方が利用するのではないか。
- 1階エントランス周辺にも展示ができると考えられる。海外のミュージアムを視察したところ、外構からさまざまな展示があり、機運を高めて博物館に入場するような工夫がなされていた。そうしたエリアがあると博物館への来館者も増えるのではないか。
- 来館者が博物館にどのように入っていくのか、奥まで巡回する動線が重要。

①展示スペースの展示構成

事務局より資料3について説明があった。委員からの主な意見は以下のとおり。

- 外苑エリアの歴史というテーマが掲げられており、この部分を重視して展開して欲しい。なぜ、神宮外苑に日本最大のスポーツ・コンプレックスがあるのか、経緯を知ることができるような企画が重要。
- 実物の展示以外にも視覚化による実感ができるとよいのではないか。例えば、大谷選手の走塁スピードの実際をパネルに映し出すといった見せ方は、スポーツに興味がない方もアスリートの身体能力に興味を持つきっかけとなる。

- スポーツの未来や問題を考える視点も取り入れるとよい。
- カテゴリーに関して、狭く深く掘り下げる展示期間があるとよい。外苑の歴史ほか、各競技に特化した展示を提供し、コアファンが訪れるようにすることで、繰り返し訪れたい場所になるのではないか。
- 体験型の展示に限らず、三段跳び選手の歩幅を廊下に足跡だけで表現するなど、見るだけで体感できるものもあり、限られたスペースをうまく活用する方法が考えられる。
- 一般の方がどれくらい興味を持つかを考えると、ハードルが高い部分を感じる。展覧会で目玉にする設定をどうみつけるか。オリンピックミュージアムがあるなかで、オリンピックだけでない部分に目玉となる設定ができるのか。
- 限られた展示スペースで実物とデジタルで表現できるものをいかに組み合わせるかが課題。バレーのスパイクやラグビーのスクラムのVR体験といった楽しみ方はデジタルで可能。遠足や修学旅行で子どもたちに来てもらうとよい。
- 地方の方々にとってはインターネットで博物館の魅力を調べることになるため、館ホームページの充実が検討が必要。
- 博物館をバーチャル空間で楽しむことも検討して欲しい。ブラインドの方への配慮について、実際にさわられるものや音による情報も有意義と思う。
- アンチドーピングの側面から、負の歴史やサイエンス分野についてもふれられるとよい。
- 場所の制限があると思うが、博物館が生み出す場（ワークショップ、オープンギャラリー）を重視し、多様な変化、体験を可能にして欲しい。
- 子連れの場合、博物館に行きづらいという声をよく聞くため、子どもを預けられる場所の検討が必要。
- 医科学、サイエンス分野の発展は目覚ましく、1964年の東京大会時の子どもの体力と現代を比較するなどを取り上げるとよいのではないか。
- スポーツを観るメディアの変遷についても取り上げるとよい。
- スポーツに関する方々を表彰する、紹介するような場があってもよいのではないか。

②オープンギャラリーの運用・活用

事務局より資料4、池口委員より資料5について説明があった。委員からの主な意見は以下のとおり。

- 博物館の収容力とラグビー来場者数との落差が大きく、来場者にいかに対応するかが、今後、課題となるのではないか。
- JAPAN SPORT OLYMPIC SQUAR と、さまざまな競技やテーマで連携が可能で、連携案は魅力的である。オープンギャラリーは無料でよいのか。受付、オープンギャラリーの先に展示スペースがあり、どのエリアを有料にするのかを含めた運用の検討が必要。
- ラグビーの試合をやっていないときに、どのような展開をするか。ラグビーの名選手をゲストにイベントを行うなどの集客方法の検討が必要。
- オリンピックミュージアムと相乗効果が生まれる展開を検討いただきたい。また、パラスポ

ーツ選手や障がい者に関わる意見を反映できる体制を取るべき。

- アスリートがどれだけの身体能力を持っているかを観て欲しいと感じる。子どもたちにも体感して欲しい。スポーツの試合時間は約2時間。その前後の時間の使い方や動線を工夫することで博物館に足を運んでもらえるとよい。また、試合開催期間中に競技に特化したオープンギャラリーを企画するなど、連携しながら展示を変えることで、より多くの方に楽しんでいただけるのではないか。
- 海外の美術館・博物館に行った際、紙のガイドが1枚もないということがあった。SDGsの視点も踏まえて検討していくとよい。
- 国内の博物館でもすべてQRコードで紙の案内がなくなっている施設もあり、時代の推移をみながら検討が必要。

会議閉会に際して、事務局から第3回有識者懇談会（船橋倉庫視察）は令和6年1月10日（水）と15日（月）の2日間で日程調整を行うと事務連絡があった。

（以上）